

日野市内社会福祉法人ネットワーク
活動報告書

2016～
2021



私たちが目指すもの

社会福祉法人の現状と課題

現状

- 様々な社会福祉事業を実施するが地域（住民）で知られていない、つながりがない
- 地域課題が複雑化・潜在化し、1法人で取り組むことが難しい
- 社会福祉法人同士の「横のつながり」が希薄
- NPOや企業が福祉事業や社会貢献活動を行うなか社会福祉法人の存在意義が問われている

課題

- 既存の制度では対応できなかった課題への対応
- 無料または低額な料金での福祉サービスの提供
- 社会福祉法人の専門性・資源を生かした取り組み

既存の制度やサービスでは対応できない
地域課題に向き合い、社会福祉法人としての
存在価値を高めていく

1. 社会福祉法人が持つ力を生かした地域づくり
2. 専門性を生かした連携で支援力アップ
3. 安心・安全で継続性のある取り組み



分野を超え社会福祉法人同士の 連携やネットワーク化による取り組み

- 地域公益活動
地域の様々な社会資源と連携し、地域課題（介護や生活困窮・災害など）に対し積極的に取り組んでいく。
- 福祉教育の推進、人材育成
福祉教育の推進とともに、福祉の仕事の理解を進め福祉人材の育成（確保）を図っていく。
- 情報発信・共有
ホームページや広報紙、講演会（シンポジウム）などを様々な媒体を活用し、地域課題や社会福祉事業、福祉の仕事についての広報周知を行っていく。



設立の経緯と活動の3つの柱

設立の経緯

平成29年4月、社会福祉法改正により社会福祉法人制度改革が行われました。「組織ガバナンスの強化」や「運営の透明性の向上」のほか、私たち社会福祉法人は「地域における公益的な取組を実施する責務（地域貢献）」が位置づけられました。そこで、日野市では市内に所在する社会福祉法人が協力し、より効果的に地域貢献活動が実施できるよう平成30年2月に「日野市内社会福祉法人ネットワーク（事務局：日野市社会福祉協議会）」を設立しました。



設立記念講演会

活動方針（3つの柱）

我が国が目指す「地域共生社会」とは、住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを地域ともに創っていく社会のことです。

日野市内社会福祉法人ネットワークでは、社会福祉法人が持つ社会資源が相互に協力し、地域共生社会の実現のため、「暮らしの支援」「福祉教育（人材育成）」「情報発信」を活動方針の「3つの柱」と位置づけ、様々な取り組みを行っています。



みんなと一緒にの運動会（障害者運動会）

これまでの主な取り組み

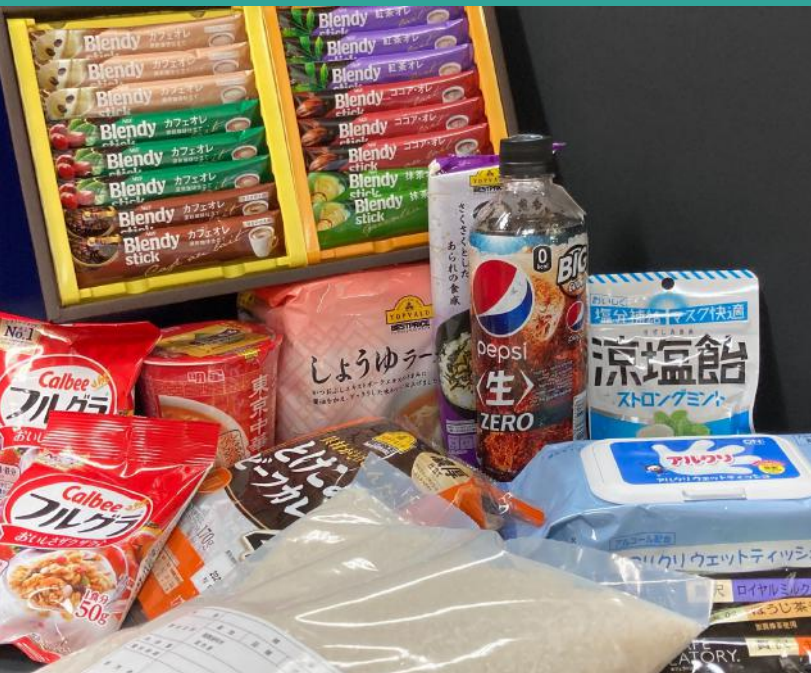
- 暮らしの支援
日野市フードパントリー
買い物お助けサービス
- 福祉教育（人材育成・就労定着）
福祉のしごと相談会
社会福祉法人地区別意見交換（交流）会
明星大学福祉実践学科での外部講師「移動支援」
- 情報発信
日野市内社会福祉法人活用ガイドブック
地域共生社会を考えるシンポジウム
- ★協力★
日野市民でつくる防災・減災シンポジウム
みんなと一緒にの運動会



買い物お助けサービス

事例紹介

暮らしの支援



日野市フードパントリー

フードパントリーとは、困窮する家庭などを対象に食料の提供とともに、生活の困りごとに応じて、適切な相談支援機関等につなぐ活動です。日野市では、NPO法人フードバンクTAMAが、日野市セーフティネットコールセンターの補助を受け「日野市フードパントリー事業」として実施しています。日野市内社会福祉法人ネットワークでは、フードパントリーの食の中継地点として3つの社会福祉法人が令和元年11月から食の提供及び相談機関の案内を開始しました。コロナ禍で生活に困窮する家庭が増し、令和4年3月現在、協力する法人は5法人と活動の幅は広がっています。

買い物お助けサービス

（社福）友遊の家が所有する車両を活用して、月2回（隔週土曜）南平地域の公共交通機関空白地域に暮らす高齢者を近隣のスーパーマーケットに送迎しています。

令和元年12月に試験的に開始した試みでありましたが、利用者からの「継続の声」をいただき、現在も活動中です。

この取り組みを始めるため、南平地区社会福祉協議会や地域住民をはじめ地域包括支援センターすずらん、民生委員、自治会、当該地区に所在する（社福）つくしんぼ保育園など様々な方々の助言や協力を得て実施しています。



大学生エールごはんプロジェクト

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン授業の実施やアルバイト等の雇用の場の削減など、生活環境の急激な変化を余儀なくされた市内大学生を支援するため、フードパントリーのスキームを活用して令和3年9～10月に実施しました。市内の明星大学や実践女子大学、都立大学をはじめ中央大学や東京薬科大学へ広報し、就学環境を維持するために必要な生活物資（食料品や日用品）を配布し、継続な支援が必要な学生にはフードパントリーの利用を呼び掛けました。併せて、現在の困りごと等のアンケート調査も実施しました。

事例紹介

福祉教育・人材育成

福祉のしごと相談会

この相談会は、日野市福祉政策課とハローワーク八王子、東京都福祉人材センターとの共催で実施しています。

日野市内社会福祉法人をはじめとする市内の福祉事業者に参加を呼びかけ、福祉の仕事をしたい方と求人募集のある事業者の出会いの場づくりとなっています。

福祉の仕事で働きたい方や福祉資格をお持ちの方、関心のある方などが気軽に相談できる時間です。こうした機会を通じ、現在、社会問題の一つである福祉（介護）人材不足の解消を図っています。



明星大学人文学部福祉実践学科 「地域ニーズ開発」の講義（外部講師）

明星大学人文学部福祉実践学科「地域ニーズ開発」の外部講師として講義を行っています。社会福祉法人（事業所）職員をはじめ当事者、若手職員などが登壇し、親しみやすく、また実践的に「障害」について理解を深める機会としています。

また、障害者総合支援法の改正以降、一層ニーズが高まる「移動支援事業」について紹介しています。令和3年度より始まった「日野市移動支援従事者研修」では障害分野の複数の社会福祉法人（事業者）が連携して実習指導を行っています。



地区別意見交換会『福祉の魅力再発見！ つながろう！社会福祉法人の仲間たち』

同じ地域の福祉施設で働く職員の「横のつながり」を育くむため、令和元年・2年に開催しました。市内を4つの圏域（ひの・たかはた・とよだ・ひらやま）に分け、各圏域に所在する施設（若手・中堅）の職員に参加を呼びかけました。

福祉の仕事の魅力を再認識し、やりがいやとまどいなど各々が今感じていることを語り合い、共有することで、今後の仕事に対するモチベーション向上を図ることを目的としています。

コロナ禍により中止していますが、感染状況が落ちついてきましたら再開する予定です。



事例紹介

情報発信（広報啓発）



地域共生社会を考えるシンポジウム

地域共生社会の実現を目指し、地域が抱える課題について、地域全体で考える機会として実施するシンポジウムです。

社会福祉法人の関係者はもとより民生委員・児童委員、福祉団体、行政職員の皆様と課題の共有とともに「顔の見える関係」を育み、連携が深まることで日野市の地域福祉活動の推進が一層図られることを期待しています。

これまでに「子どもの貧困」や「障害者差別解消」をテーマに行ってきました。

今後も高齢・障害・保育（児童）・貧困など幅広い地域（福祉）課題について、地域で考えていく機会として開催していく予定です。

日野市内社会福祉法人ネットワーク 活用ガイドブックの発行

地域住民に分かりやすく社会福祉法人（施設）の情報発信するとともに、社会福祉法人が持つチカラ（人的・物資の資源）を有効に活用して、幅広く地域貢献が果たせるよう「日野市内社会福祉法人活用ガイドブック」を作成しました。

このガイドブックでは、出張相談や施設・附帯設備の貸出、地域活動の広報（チラシ掲示）など施設の特徴を生かした地域貢献活動を紹介しています。

社会福祉法人の持つ資源を「見える化」することで、「地域のつながり」や「居場所づくり」など地域福祉活動の活性化を図っていきます。



日野市民でつくる防災・減災シンポジウム

市内の社会福祉法人が住民や自主防災組織、行政職員など地域の様々な分野の人で構成される実行委員に参加し、日頃から防災活動に取り組む人同士、顔の見える関係づくり、地域の防災・減災について考える日野市民でつくるシンポジウムです。社会福祉法人の多くで福祉避難所の運営を行うなど、地域と福祉施設が抱える現状について情報共有を行う機会としています。また、この機会を通じて社会福祉法人において関心の高い防災問題（災害時要配慮者やBCP作成）についての具体的な対策や一層の連携を図っていくことが期待されています。

TOPICS

ネットワーク化に向けた準備



社会福祉法人制度改革に伴う社会福祉法人のネットワーク化に向けた準備会

社会福祉法改正により、社会福祉法人による「地域における公益的な取り組みの責務」が位置づけられ、日野市では市内の社会福祉法人のネットワーク化に向けた準備会を平成28年3月を開催しました。準備会には、高齢・障害・保育分野の各2法人から意見を伺い、社会福祉法人制度改革に向けた勉強会の実施や各法人の状況把握（情報交換）が求められました。そこで市内社会福祉法人を対象とした「社会福祉法人制度改革対応セミナー（平成28年8月）」「社会福祉法人制度改革に関するアンケート」を実施することとしました。

「社会福祉法人制度改革」に関するアンケート結果(抜粋)

[地域貢献活動/ネットワーク化について]

実施 日野市内社会福祉法人連絡会準備会（仮称）
期間 平成28年4月26日～5月20日
対象 市内社会福祉法人 30 法人
回答 23 法人(24施設) 30 法人



地域貢献活動実施 のために法人が抱える課題



人材・財源の不足 37%



地域課題の把握 25%



1 法人だけでは難しい 20%



現在行っている地域貢献活動



地域行事の協力 75%



職場体験（福祉教育） 54%



施設・備品の貸出 41%



居場所づくり 33%



日野市内社会福祉法人の ネットワーク化について



希望する 83%



希望しない 12%



分からない 1%

TOPICS

●設立・交流

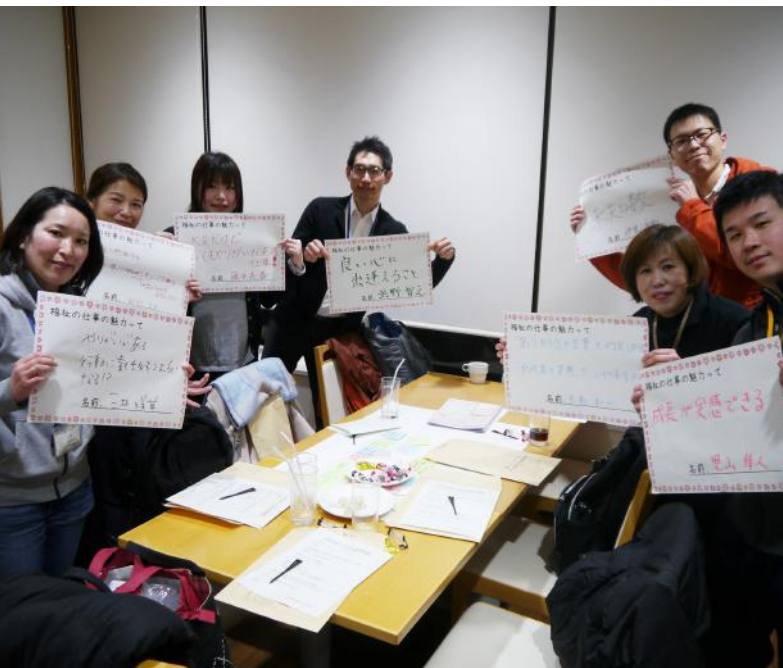


日野市内社会福祉法人ネットワークの設立 (記念講演会 & 情報交換会)

社会福祉法人のネットワーク化に向けた準備期間を経て、平成30年2月に日野市内社会福祉法人ネットワーク設立記念講演会&情報交換会を行いました。講演会では、社会福祉法人制度改革に位置づけられた地域における公益的な取り組みについて、法律の趣旨や他地区の事例などを学び、各法人が取り組んでいく上での考え方を共有しました。情報交換では、ネットワーク活動の一つとして法人（施設）間の交流が挙げられ、役員（管理者）だけでなく、現場で働く職員の「横のつながり」を求める声を多数いただきました。

みんなといっしょの運動会（障害者運動会） & 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 運営協力（職員参加）の呼びかけ

日野市内社会福祉法人ネットワークが設立されましたが、30近くある法人（約100施設）それぞれ分野や規模、考え方、時間も制約があるなかで具体的な取り組みを検討していくことが当面の課題でした。そこで幹事会（準備会メンバー）では、日野市社会福祉協議会が実施する「みんなといっしょの運動会」や「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」の運営協力を各法人に呼びかけ、障害や防災についての理解を深める時間とするとともに、職員間の交流を図る機会としました。



福祉の魅力の発信や就労定着 (仲間づくり)

ネットワーク設立時に、各法人を代表する方から多く寄せられた課題は、社会福祉法人制度改革を進めていくうえでは法人で働く若手からベテラン職員まで全職員がこの改革について情報を共有し取り組んでいくことの難しさでした。また、職員が業務多忙となる中で、外部研修や他団体との交流（つながり）する時間が失われているとの声もありました。そこで、地区別意見交換会を開催し、同じ地域、福祉で働く職員同士の仲間意識を育む機会を創り、また「福祉の魅力」を再認識するため、仕事についたきっかけなどを話し合うことで、現在の業務について振り返る時間としました。

TOPICS

●NPO法人フードバンクTAMAとの連携 「食を通じた暮らしの支援」

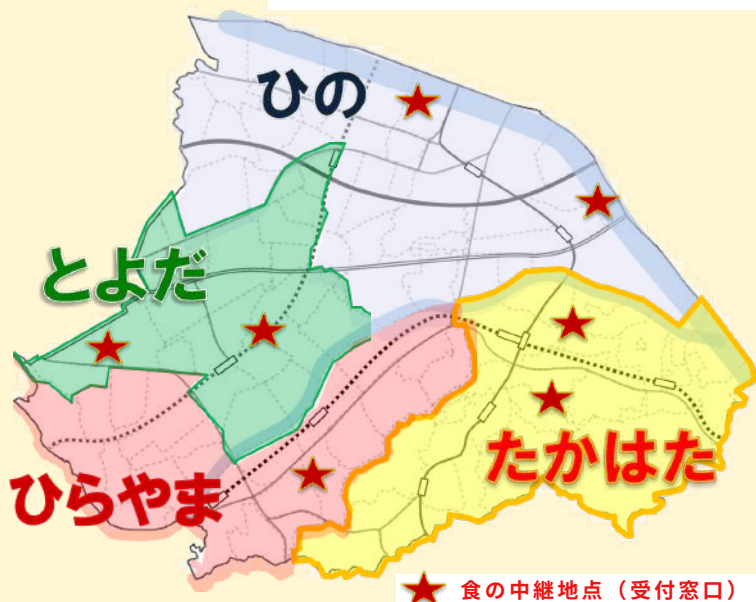
日野市フードパントリー

都内でも前例の少ない取り組みのため、具体的な活動内容とともに「利用者が受け取りやすい場所の確保」が大きな課題と挙げられていました。

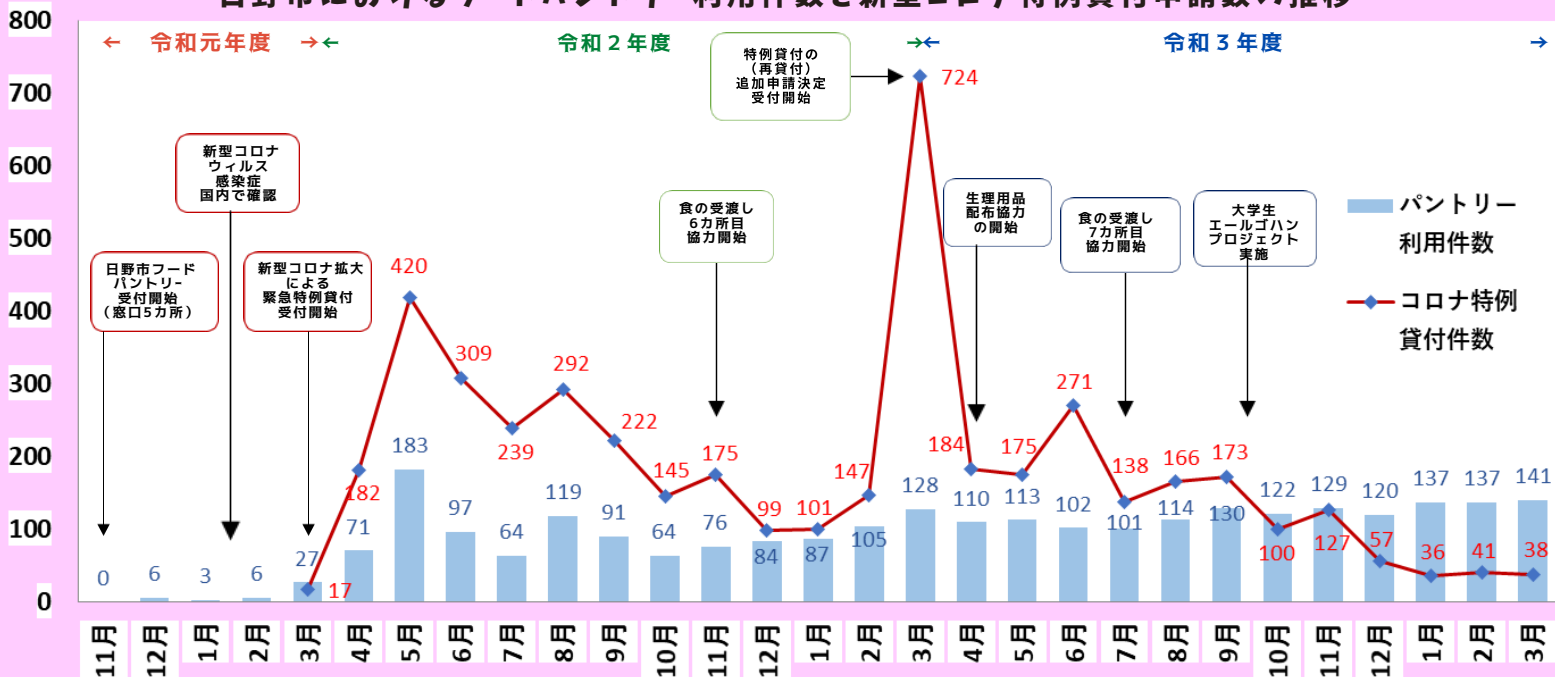
そこで、日野市社会福祉協議会が中心となり、日野市内社会福祉法人ネットワークに協力を呼びかけ令和元年11月より「食の中継地点」として食料の提供及び適切な相談機関へつなぐ協力を開始しました。開始当初は、利用者がほとんどなく周知方法について当面の課題となっていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済的に課題を抱えた家庭の急拡大したことに伴いフードパントリーの利用も急激に増加し、現在も月100件を超える高水準で利用されています。

日野市フードパントリー受付マップ



日野市におけるフードパントリー利用件数と新型コロナ特例貸付申請数の推移



「食を通じた支援」の現在とこれから・・・

フードパントリーのスキームを活用して「大学エールゴハンプロジェクト」のほか、「生理の貧困」にある方の支援のための「生理用品ナプキン無料配布」を行っています。食材を保管箱へ詰め込む作業などは、障害者やひきこもりにある方等の自立支援プログラム（就労支援）の一つとして協力、実施しています。

今後は、経済的な困窮者の支援のための食材の提供のほか、相談支援力の強化に努めていきたいと考えています。日野市内社会福祉法人ネットワークではフードパントリー以外にも、フードドライブ（家庭で余った食料品の持ち寄り、寄附）など、各法人で協力できる活動内容を検討し、支援を拡大していきたいと考えています。



にご協力をお願いします。

沿革

- 平成28年 3月 日野市内社会福祉法人連絡会準備会の開催
- 4月 社会福祉法人制度改革に関するアンケート実施
- 9月 社会福祉法人制度改革対応セミナー & 社会福祉法人情報交換会の開催
- 平成29年 10月 みんなといっしょの運動会の運営協力
- 12月 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練に参加協力
- 平成30年 2月 日野市内社会福祉法人ネットワーク設立記念講演会 & 情報交換会の開催
- 8月 日野市民でつくる防災・減災シンポジウムの共催（実行委員に参加協力）
- 11月 たかはた圏域地区別意見交換会の開催
- 平成31年 1月 日野市内社会福祉法人活用ガイドブックの発行
買い物お助けサービスの開始
- 2月 地域共生社会を考えるシンポジウム『輝く子どもの笑顔のために…』開催
とよだ・ひらやま圏域地区別意見交換会の開催
- 令和元年 10月 ひの圏域地区別意見交換会の開催
明星大学人文学部福祉実践学科「地域ニーズ」での講義実施
- 11月 日野フードパントリー「食の受渡し窓口」として3法人で開始
- 令和2年 4月 日野市内社会福祉法人活用ガイドブックの更新
- 11月 日野フードパントリー「食の受渡し窓口」に新たに1法人が参加協力
- 3月 地域共生社会を考えるオンラインシンポジウム
「無意識の思い込み・偏見（アンコンシャスバイアス）」
- 令和3年 7月 日野フードパントリー「食の受渡し窓口」に新たに1法人が参加協力
- 10月 明星大学人文学部福祉実践学科「地域ニーズ」でオンライン講義実施
- 11月 障害福祉分野の5法人による日野市移動支援従事者研修への実習指導

日野市内社会福祉法人ネットワーク一覧

	社会福祉法人	主な施設
ア行	あかつき 雲柱社 栄光会 おおぞら	特別養護老人ホーム花子 たまだいら児童館ふれっしゅ ほか 栄光保育園、栄光平山台保育園、栄光多摩平中央保育園 ほか つばさ、やまばと、はくちょう、障害児放課後クラブ ほか
カ行	菊美会 貴静会 健生会 寿優和会	日野第二保育園、たかはた北保育園、日野駅前かわせみ保育園 ほか 上田せせらぎ保育園、子どもの森あさかわ保育園 ほか よつぎ日野保育園 ほか 特別養護老人ホーム浅川苑、特別養護老人ホームあすなろ ほか
サ行	三多摩福祉会 至誠学舎立川 すずかけの会 清心福祉会 創隣会	コスモス日野 ほか 至誠第二保育園、万願寺保育園、至誠いしだ保育園 ほか すずかけの家、ふらっと・すずかけ、放課後等ディサービスぷらたなす ほか わらべ日野市役所東保育園 ほか 地域包括支援センターあいりん、リハビリデイきりん、こばと寮 ほか
タ行	大家族 つくしんぼ保育園 東京都社会福祉事業団 東京光の家 東京緑新会	特別養護老人ホームシンフォニア、ひよこハウス豊田 ほか つくしんぼ保育園 東京都七生福祉園、日野療護園 ほか 光の家栄光園、神愛園、新生園、就労ホーム ほか 多摩療護園、地域生活相談室おあしす
ナ行	にんじんの会 ねぐるみ会 のぎく会	にんじんホーム万願寺 ほか 芝原保育園、豊田保育園 日野保育園
ハ行	博泉会 日野青い鳥福祉会 日野市社会福祉協議会 日野市民たんぼぼの会 吹上会 二葉保育園	高幡台老人ホーム、デイホームさくら ほか あおいとり日野、ケアホーム青い鳥 ほか たんぼぼ日野センター、たんぼぼ高幡センター、くつろぎ ほか 吹上保育園、吹上多摩平保育園 ほか 自立援助ホームトリノス ほか
マ行	マザアス 幹福祉会	特別養護老人ホームマザアス日野、東京都多摩若年性認知症総合支援センター ほか サポート日野 ほか
ヤ行	友遊の家 夢ふうせん	友遊ケアセンター 工房夢ふうせん、工房夢ふうせんアネックス
ラ行	隆山會 緑樹会	特別養護老人ホーム豊かな里、高齢者専用賃貸住宅豊かな里 ほか 介護老人福祉施設ラペ日野 ほか
ワ行	わかば福祉会	日野わかば保育園 ほか

